

〈名画の扉〉

大川美術館展示から



「版画集『水仙月の四日』から  
 (一)空に舞う雪の化生たち」

1984年、シルクスクリーン、紙  
 43・0センチ×61・8センチ

高松次郎 (1936〜98年)

青、白、赤、黒を主調とした4枚のシルクスクリーンによる版画集から、本作は青を主とした一点です。色のリズム、束になって絡み合う線の集合体が揺らめいています。

岩手の吹雪を題材にした宮沢賢治の童話「水仙月の四日」(1922年)に、高松次郎が絵をつけています。タイトルにある「水仙月」とは、賢治が創作した月の名で、ただ水仙の花が咲く月とも。「四日」は、「しずかな綺麗な日曜日」と、童話の中で語られています。

冬のある日、少年は山中で吹雪にあいませす。青空が転じて吹雪となり、やがて吹雪は

2次元と3次元の境界を意識させる作品、実在のない影のみを描いた作品などで脚光をあびていた高松は、視覚的な賢治の物語世界を見事に抽象化させています。(小此木)